

なぜ？ 11月に北海道で

「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』 シンヌラッパ・クンネニサツ」

ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ

それは、私たち人間が空間、記憶、言葉、視線、時間を共有しなければならないからです。アダム・ミツケヴィチは並外れた直感を得て、地中海・西欧文明の原初的な長所に基づいて作られ宮殿や中庭や学校や大学の劇場で見慣れているものとは異なる、スラヴ演劇のモデルを作りました。彼がこれを書いたのは、リトアニアとポーランドがロシアの植民地にされていたときのことです。



その約100年後、W・B・イェイツが、独立と言語文化の回復のために戦うアイルランド人のために、日本能楽の影響を受けて『踊り手のための四つの戯曲』を創作したように、ミツケヴィチは植民地主義者の課した課題に従い、英国とは異なる国民性を生み出す仕事を自らに課したのです。

死者の霊との交感

ミツケヴィチの『祖霊祭 Dziady』は、ポーランド演劇の発展における金字塔です。ミツケヴィチは何年もかけて『祖霊祭』を書き続けましたが、その上演を見ることはできませんでした。その源にある種子とは、素朴なスラヴ民衆の宗教儀式あるいは行事でした。村人たちが(カトリックと正教会の権威が禁じていたため)密かに集まり、穀物、牛乳、菓子、ウォッカを捧げる異教の儀式を行い、死者の霊を呼び出したのです。Dziadyという言葉には「祖父たち」という意味があります。地獄に行かず安らぎを得るにはどう生きればよいかという問いに、精霊が答えてくれると人々は信じているのです。精霊がやって来て答えてくれる。つまり、生きている人は死者と話し死者から学ぶことができるのです。ここからポーランド文学や社会におけるロマン的感性のエッセンスが発展しました。目に見えるものと見えないものが混交し、それにより人間は自己変革すべきなのです。そうして初めて、より良い人生を送ることができるのです。

詩劇『祖霊祭第二部』のテキストは非常にシンプルで、私たちはポーランド語原文の日本語訳の劇にアイヌ語のフレーズを加える試みも行っています。

ブロニスワフ・ピウスツキとの縁

私たちのプロジェクトの一つのきっかけは、120

年前にブロニスワフ・ピウスツキが北海道(その前にサハリン)でアイヌの人々と出会い、彼らの言葉や習慣を記録したことです。彼は男女の声を録音しました。80年後先端技術のおかげで再生した昔の人々の声はまるで幽霊が話すように聞こえました。ブロニスワフは、生前は不連続きで、自殺しました。そのため、彼の霊を呼び出し、自殺の後に安らぎを得るには何が必要か尋ねることもできるでしょう。アイヌは彼に歌や時間や言葉を贈りました。時には食べ物やお金の贈り物と引き換えに。また、アイヌの人々は彼に子供や孫も授けました！アイヌの霊を呼び出しテキストと音楽を捧げて感謝するのには、正当な理由ではないでしょうか？

私たちは春から共同プロジェクトを立ち上げました。パートナーは CeMiPoS、さっぽろ自由学校「遊」、メノコモシモン、北海道ポーランド文化協会、ユゼフ・ピウスツキ博物館、アマレヤ劇団です。基本的な資金はアダム・ミツケヴィチ・インスティテュートと「ミツケヴィチ×44」プログラム、およびポーランド広報文化センターから提供されています。

北海道ポーランド文化協会のご尽力により、7月3日にとても興味深い詩の夕べが開催されました(第11回「午後のポエジア」)。春に行われたメノコモシモンとのオンラインミーティングを経て、札幌でのライブリハーサルと11月28日の最終発表会を計画しています。ポーランド文学・文化の大家である関口時正先生の講義「アダム・ミツケヴィチ『祖霊祭』について」は、より良い準備となるでしょう。その前の11月23日には、メノコモシモンとアマレヤ劇団による動画の上映と新作パフォーマンス「Mówi ONNA 女は語る」を行います。ぜひお越しください。

(Jadwiga Rodowicz-Czechowska, スレコヴェクのユゼフ・ピウスツキ博物館副館長) [安藤厚訳]

《第102回例会》パフォーマンス「女は語る」2022.11.23(水)10:00～札幌文化芸術劇場クエイティブスタジオ
《第103回例会》講演&公開リハーサル「ポーランド・アイヌ祖霊祭」11.28(月)13:30～かでの2・7_520研修室



共催：北海道ポーランド文化協会 <http://hokkaido-poland.com/> & CEMiPoS <https://cemipos.org/>



北海道ポーランド文化協会例会から

入場無料、事前予約不要、お問い合わせ先 hokkaidopolandca@gmail.com
 コロナ感染対策としてマスク着用・手指消毒にご協力をお願いします
 感染拡大等による急な予定変更は↑HP 等でお知らせします

11/23 (水・祝)

10:00～11:30 開場 20 分前

札幌文化芸術劇場 hitaru (北1西1)
 3F クリエイティブスタジオ

2019年9月札幌で初演した舞踏劇「(残) 饗：ポーランドと日本に架ける橋」以来の共演

◆短編動画「アイヌとカムイのためのレクイエム
 Requiem dla Ajnu i Kamui」2021.12 を上映

◆新作パフォーマンス「Mówi ONNA 女は語る」
 どんなものになるかはお楽しみ

◆アフタートーク 観客と演者の交流
 アマレヤを率いるカタジナ・パストウシヤク氏は舞踏の研究者



「アイヌとカムイのためのレクイエム」
 2021 <https://cemipos.org/requiem/>

《第 103 回例会》

講演・朗読&公開最終リハーサル「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』 シンヌラッパ・クンネニサツ」

『祖霊祭』～生者と死者の交流

作:ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ
 by アマレヤ劇団&メノコモシモシ

11/28 (月) ※2つの会場での開催になります

パート1 13:20～15:00 開場 20 分前
 道民活動センター かでる2・7 (北2西7) 520 研修室

◆お話「ポーランド・アイヌ『祖霊祭』
 シンヌラッパ・クンネニサツについて」
 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフ
 スカ博士 (能の研究者、元駐日大使)



◆講演「ポーランドのロマン主義～ミツ
 キエヴィチ作『祖霊祭』の役割と意義」
 関口時正 (東京外国語大学名誉教授)

◆朗読『祖霊祭』第2部より
 林家とんでん平師匠 (落語家)



パート2 16:30～18:00 開場 30 分前
 シアターZOO (南11西1)

◆公開最終リハーサル「ポーランド・アイヌ『祖霊
 祭』 シンヌラッパ・クンネニサツ」 Polish-Ainu
 "Forefathers' Eve - sinnurappa-kunne nisat"
 ◆アフタートーク

ポーランドロマン派の国民的詩人アダム・ミツキ
 エヴィチの詩劇『祖霊祭』をベースに、19世紀末か
 ら20世紀初頭の樺太・北海道でのプロニスワフ・
 ピウスツキとアイヌの交流に思いを馳せつつ、ロド
 ヴィッチ氏がオリジナルな脚本を仕上げました。
 演じるのはアマレヤとメノコモシモシです。



日本・ポーランド共同創造演劇『DZIADY 祖霊祭』2019-20
https://youtu.be/B_QTChr7tto

協賛：



Co-financed by the Minister of Culture and National Heritage of the Republic of Poland